

平成17年度病害虫発生予察注意報第1号

平成17年7月28日

鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

7月下旬に行ったイネの定点巡回調査の結果、平年に比較して紋枯病の発生が多く、今後、発生の拡大や上位葉への進展が懸念され、出穂前防除の徹底が必要な状況となっています。

病害虫名：紋枯病

- | | |
|--------|----|
| 1 対象作物 | イネ |
| 2 発生地域 | 全域 |
| 3 発生量 | 多い |

4 注意報発令の根拠

(1) 7月下旬現在、定点ほ場における本病の発生ほ場率は、65.1%(平年33.9%)で、平年に比較して極めて広範囲に発生がみられている(表1)。

さらに、発生が中程度以上(発生株率11%以上20%未満)のほ場率は、23.8%(平年6.4%)で、平年の3.7倍と極めて高い。

(2) 7月21日現在、県予察ほ場における病斑高率は28.6(平年20.0)と平年に比較して高く、平年の8月1日並の発生となっている(表2)。

(3) 本年のイネの生育は茎数が多く、本病の発生に好適な状況となっていることから、今後の発生量の増加が予想される。

(4) 7月22日発表の気象予報によると、向こう一か月の気温は平年並か高く、降水量は平年並か多いと予想されており、今後も本病の発生に好適な条件が続くと予想される。

5 防除上注意すべき事項

(1) 本年は、例年発生がみられないほ場でも発生していることから、防除を徹底する。

(2) 防除適期は幼穂形成期～出穂期であるが、発生が多い場合は早めに防除を行う。特にコシヒカリでは、倒伏に伴い急激に病勢が上位進展するので、出穂前防除を徹底する。

なお、出穂後の防除は効果が低いので、必ず出穂前防除を行う。ただし、この時期に防除を行っていない場合で、出穂後であっても防除を行う。

(3) 使用薬剤は表3を参照し、農薬使用基準を遵守する。

表1 紋枯病の発生程度別発生ほ場率（7月下旬）

年次	甚 〔発病株率 31%以上〕	多 〔発病株率 21～30%〕	中 〔発病株率 11～20%〕	少 〔発病株率 1～10%〕	計	発生程度 中以上
平成17年	2.5%	2.5%	18.8%	41.3%	65.1%	23.8%
平年	1.0%	1.1%	4.3%	27.5%	33.9%	6.4%

表2 県予察ほ場における紋枯病の病斑高率

調査月日	平成17年	平年	平成16年
7月21日	28.6%	20.0%	19.6%
8月1日	-	27.8%	33.4%

表3 紋枯病の主な防除薬剤

薬剤名	収穫前日数	使用回数	10a当たり使用量
モンカットファイン粉剤20DL	14	3	3～4kg
モンセレン粉剤DL	21	4	3～4kg
モンガード粉剤DL	14	3	3～4kg
バリダシン粉剤DL	14	-	3～4kg
リンバー粉剤DL	21	2	3～4kg
等			